

## NCGM における防護服の着脱手順

### 1. 着る場合の手順

重要点 1：本項の以下の手順は必ず 2 人行う。

重要点 2：各手順が確実にできていることを介助者が確認しながら装着する。

- (1) ディスポ手術着を着る。
- (2) ディスポ手術着の胸にキーカードをつける。
- (3) つなぎスーツを装着し、ファスナーを首まで上げる。
- (4) 足カバーを着ける
  - ・ 紐が付いているタイプの足カバーの場合は紐を結ぶ
- (5) N95 マスクを装着する。
  - ・ 鼻梁に隙間のないよう調節する。
  - ・ 鼻梁のワイヤー（金属の部分）を指先で押さえつけるようにして自分の鼻の形に合わせる。
  - ・ ゴムはクロスさせない
  - ・ 両手でマスクを覆い、息を強く出し空気が漏れていないか、息を吸って陰圧（マスクが吸い付く感じ）があるかユーザーシールチェックを行う
- (6) ゴーグルを装着する。
  - ・ 水中メガネタイプのゴーグルはゴム部分を調節し緩みがないことを確認する
  - ・ ゴーグルがくもらないようにくもり止めを着けておく
  - ・ 日常で眼鏡を使用している人は、ゴーグルを外す時に眼鏡がずり落ちてこないよう、中央部分をテープで額に固定するとよい
- (7) つなぎスーツで頭部を覆い、補強のシールを剥がして貼る。
  - ・ 首の部分をしっかり覆い、露出していない事を確認する。
  - ・ しっかり覆うことが大切なので、パートナーに覆ってもらい、自分でも鏡で確認する
  - ・ 髪が長い場合、前髪はピンで留め、髪は後頭部中央でしっかり束ねる（脱ぐ時に、汚染されたマスクやゴーグル表面に髪が触れることがあるため）。
- (8) インナー手袋（内側）を着ける
  - ・ つなぎスーツの袖の外側をインナー手袋でしっかりと覆う。
- (9) アイソレーションガウン（耐水性ディスポーザブルガウン）を着る。
  - ・ ガウンの後ろ側が開いたままとならないように、介助者に確認してもらう。
  - ・ 紐は出来るだけ側腹部で結ぶ（補：脱ぐ時にほどきやすく、感染のリスクが低くなる）。

- (10) ブーツを履く。
  - (11) フェイスシールドを着ける。
    - ・ フェイスシールドが額の部分にフィットしていることを確認する
  - (12) アウター手袋（外側）を着ける
    - ・ アイソレーションガウンの袖の外側をしっかり覆う
  - (13) 完了
-

## 2. 脱ぐ場合の手順

重要点 1：本項の以下の手順は必ず 2 人で行う。

重要点 1：各手順が確実にできていることを介助者が確認しながら脱着する。

### <病室内>

- (1) 次亜塩素酸ガーゼでアウターの手袋の上から手を拭く
  - ・ 手袋に付いた病原体を少しでも失活させるためである。
- (2) フェイスシールドをはずし、破棄する。
  - ・ つなぎスーツの頭部分に触れないようスポンジの部分を持って外す。
- (3) アイソレーションガウンを引き剥がすようにして脱ぐ。
  - ・ ガウンは中表に裏返しながら、丸めるように脱ぐ。
  - ・ ここでアウター手袋は先に外さず、一緒に外せるように脱いでいく。
  - ・ 最後に手袋が外せるようにする。
- (4) ブーツに手を触れないで脱いだのち、病室内に脱ぎ捨てて、前室に移動する。
  - ・ ブーツの片方を脱いたら、脱いだ方の足を前室に出す。
  - ・ 次に残りの片方を脱ぎ前室に出る。
  - ・ この際体制が不安定になるので、倒れないようにゆっくり行う。
- (5) 前室で空気の入替わりを 15 分間待つ。
- (6) 次亜塩素酸ガーゼでインナー手袋の表面を拭く
  - ・ 手袋に付いた病原体を少しでも失活させるためである。
- (7) つなぎスーツの帽子部分をとる。
- (8) つなぎスーツのファスナーを腰部分まで降ろす。
- (9) つなぎスーツを、中表に裏返しながら丸めるように脱ぐ。
  - ・ 手袋は先に外さず、一緒に外せるように脱いでいく
  - ・ 丸めながら足袋まで一緒に脱ぐ。
  - ・ 最後に手袋ごと外し、手袋とつなぎスーツを一体として破棄する。
- (10) 擦式アルコール製剤で手指消毒をする。
- (11) ゴーグルを外す。
  - ・ メガネタイプは耳かけの部分を、水中メガネタイプは後頭部のゴムを持って外す。
- (12) 前々室に出て、N95 マスクのバンドの後ろの部分を持ち、はずす。
- (13) 擦式アルコール製剤で手指消毒をする。
- (14) この状態で清潔エリアに出る。
- (15) 終了。